

区民等の意見の概要と区の考え方

※網掛けの部分は、計画に反映させた意見

No.	該当頁	意見の概要	区の考え方	修正の有無
1	7	新型コロナウイルス感染症等の影響による生活様式の変化等からプラスチック排出量が増加している要因は、総菜用容器等によるものなので、ワンウェイプラスチックの説明に総菜用容器等を加えてはどうか。	削減が容易なストロー・スプーン・フォークを例として挙げましたが、ご指摘の通り、総菜用容器等のプラスチック製容器包装も、削減の必要があるワンウェイプラスチックです。用語説明の例に追加記載します。	有
2	48 49 50 51	家庭ごみの排出状況について、「新型コロナウイルス感染症のごみ性状への影響を観察」も調査目的とされているが、その結果が記載されていない。	ご意見を参考に、令和元年度調査と比較した、新型コロナウイルス感染症のごみ性状への影響を記載します。	有
3	—	国際的な機関での取組内容は、目標年等が西暦表記であることを踏まえ、本計画においても西暦併記が良いと思われる。	ご提案のとおり、国際的な機関での取組等は西暦表記であり、杉並区総合計画、実行計画でも西暦併記であることを踏まえ必要箇所を西暦併記に修正します。	有
4	—	計画の位置づけの説明に廃棄物の対策が、いかに二酸化炭素の排出量を削減し、「ゼロカーボンシティ宣言」に貢献するのかということを加えることで、環境問題全体のつながりを理解しやすくなると思う。	廃棄物対策と温室効果ガスや地球温暖化対策との関連については、計画策定の背景など本文中に複数の箇所ですべて触れています。なお、「ゼロカーボンシティ宣言」との関連については、計画を冊子化する際に表現を工夫します。	無
5	—	2R促進の観点から、衣類は拠点回収だけに留まらず、集積所等を活用した、行政回収によるリユースの拡大も計画に明示すべき。	衣類の回収は、リユース目的を中心に考えており、雨や汚れに弱く集積所での回収は困難と考えます。まずは、区民一人ひとりに資源の大切さを認識してもらい、愛着を持って長く使うことや、まだ使えるものは人に譲る、中古品販売店に持ち込むなど再使用（リユース）を通じた発生抑制に繋がっていきたいと考えます。また、引き続き集団回収を支援していきます。	無
6	—	無駄なコストをかけない資源化事業のため、効率的な収集・資源化が必要である。例として、不燃ごみで収集されている金属類等を、缶などの資源と合わせて回収・資源化することは、大幅なコスト削減につながるため、現行の不燃ごみの区分の見直しは検討課題である。	不燃ごみで収集されている金属類等を、缶などの資源と合わせて回収・資源化することは、資源化率の向上や処理コストの削減等の効果が期待される一方、分別区分が分かりにくくなり、誤排出の増加や、収集容器や収集曜日の変更など現在の収集方法の大きな見直しが必要となる可能性があります。ご提案の件は、今後の収集方法の見直しの際に検討していきます。	無

No.	該当頁	意見の概要	区の考え方	修正の有無
7	—	<p>良好な集積所環境の確保に関しては記載されているが、集積所分散化への対応策が明示されていない。</p> <p>以前、区の計画においては10世帯に対し1集積所という考え方であったと思うが、現行、2世帯で1集積所の設置が可能となっている。また、排出側が個々のルールで排出し、実質的に戸別排出となってしまうという拠点があるため、早急な対策が必要である。</p>	<p>時代の変化に伴い、地域コミュニティが希薄化し、多数の世帯による集積所の使用・管理が困難となっています。そのため、少数の世帯による集積所設置についても柔軟に対応しています。</p> <p>また、ご指摘の実質的に戸別収集となっている集積所につきましては、作業員や委託事業者の負担増加に繋がるため、発見次第是正に努めているところです。</p> <p>一方、戸別収集に対する区民からの要望は年々増加しています。戸別収集については、実施による分別の徹底、ごみの減量化は期待できますが、収集・運搬経費の増大も見込まれますので、今後慎重に調査・検討を行うこととしています。</p>	無
8	—	<p>譲り合いのコミュニティづくりを、より身近に作ることで、ごみの削減のみならず、地域住民の連携を深め、定着率や治安の維持、安心感、幸福感の創出にもつながるため、地域の環境にやさしいお店等を積極的に発信してほしい。</p>	<p>ご指摘のとおり、良好なコミュニティづくりは、ごみの減量のほか多くのメリットがあると認識しています。</p> <p>区の広報紙やSNS等を活用し、地域の実情に応じたごみの減量につながる様々な情報の周知・広報に努めていきます。</p>	無
9	—	<p>生ごみの問題の解決策として、区内の公共農園で生ごみの堆肥化プロジェクトを行うことにより、化学肥料の使用量削減、区内の緑化等も同時に図れるため、区内農家への利用を打診することが効果的である。</p> <p>また、生ごみ処理機の購入費補助の枠を拡大させ、コンポスト容器も対象にしてほしい。</p> <p>その他の解決策として、設備費等の問題は考慮しなくてはならないが、メタンガス化によるエネルギー生産も検討できる。</p>	<p>可燃ごみの3割強を占める生ごみの資源化は、重要な課題であると認識しています。</p> <p>一方で、資源化に向けた生ごみの分別回収は、資源化後(堆肥)の活用先の確保が都市部では難しいことが課題となっています。</p> <p>また、エネルギー資源化についても高額な設備設置等が課題となって進んでいない現状です。</p> <p>今後とも様々な可能性を踏まえて検討していきます。</p> <p>生ごみ処理機の購入費助成については、コロナ禍による区民ニーズの増加等を踏まえて拡充しましたが、助成対象にコンポスト容器を追加することについては、今後の申請件数等を勘案して検討します。</p>	無
10	—	<p>プラスチックは、削減すべきものであるが、必要不可欠な場合もあるので、企業努力で形状の均一化やリサイクルしやすいものに改良してもらいたい。</p>	<p>今年4月から施行された「プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律」にも、プラスチック使用製品設計指針の策定等が規定され、国としても、リサイクルが容易な製品を推奨していく予定です。区としても、都や国を通じて、企業等に対してリサイクルが容易な製品の製造を求めていきます。</p>	無
11	—	<p>廃食用油の回収拠点は14ヶ所あるようだが、十分でない。また、廃食用油を精製してBDF燃料とし、区内に会員制のBDFスタンドを造れないか。</p>	<p>令和4年4月1日より地域区民センター6か所を廃食用油の回収拠点として増設し、区内11ヶ所としています。</p> <p>回収拠点の更なる増設やバイオディーゼル燃料の活用等については、今後の回収量の推移等を考慮したうえで判断していきます。</p>	無
12	—	<p>廃食用油を月に一度集積所回収してもらいたい。</p>	<p>廃食用油は、容器の密閉状況や内容の確認が必要であることから、集積所での回収は困難であると考えております。今後とも拠点における対面での回収を進めていきます。</p>	無